

長野県砂防ボランティア協会

設立20周年記念 ～これまでの歩み～

会長挨拶

長野県砂防ボランティア協会は平成 8 年 11 月 19 日に設立し、今年設立 20 年の節目の年を迎えました。
「砂防ボランティア協会」は、平成 7 年の阪神淡路大震災を契機に土砂災害発生時の迅速な対応を目的に、全国各地で設立されました。



災害発生後の緊急点検活動

阪神淡路大震災後も日本各地で大規模な災害が多発し、長野県内でも数多くの土砂災害が毎年発生しています。それに伴って我々砂防ボランティアに対するニーズも益々増加している状況にあります。

長野県砂防ボランティア協会では、土砂災害防止月間に併せた危険箇所のパトロール、歴史的砂防施設の維持管理活動、土砂災害に対する知識の普及・啓発、さらに土砂災害発生時には協定に基づく県からの依頼による二次災害防止



砂防施設 維持管理活動

のための土砂災害危険箇所等の点検などの活動を行っています。

平成 26 年 7 月に発生した南木曽町土石流災害、同年 11 月に発生した神城断層地震の際には、協定に基づく県からの要請により土砂災害危険箇所の緊急点検活動を実施しました。この活動が土砂災害防止への功績が顕著だとして、本年 9 月に「平成 28 年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞することができました。

総理官邸での授賞式に臨みましたが、この賞は、長野県砂防ボランティアの設立から現在までに係わった全ての方々の御活躍の積み重ねに対してのものだと実感し、代表として表彰を受けた次第です。改めて皆さんの御尽力に、心から感謝を申し上げます。

この名誉ある賞に恥じることはないよう、また諸先輩方の長野県砂防ボランティア協会に対する熱い思いを胸に刻みつつ、活動を続けていく所存です。

今後も災害発生に備え、ボランティアとして研鑽を積み、培った知識と経験を活かし、県民の皆さんの安全の確保に役立ちたいと考えています。



平成 28 年 11 月 長野県砂防ボランティア協会 会長 尾坂 壽夫

～20 周年に寄せて～

長野県砂防ボランティア協会は、設立から本年で 20 年の節目の年を迎えました。歴史的砂防施設の維持管理や防災教育活動への御協力ははじめ、土砂災害防止に係るこれまでの会員の皆様の取り組みに、改めて感謝を申し上げるところです。

さて全国各地で豪雨、地震、火山噴火などによる土砂災害が相次ぐ状況のなか、砂防ボランティアに対する期待はかつてなく大きくなっています。

県と協会は、平成 21 年 1 月に災害発生時の応援協定を締結するなど、協会の皆様にはこれまで幾度も二次災害防止のため、災害発生時の緊急点検を行っていただいています。また県では、平成 28 年 3 月に長野県強靱化計画を策定し、砂防ボランティア協会との連携を掲げ、取り組むこととしています。

大規模災害発生への備えは、行政によるものだけでなく、各々の機関同士が一体となって取り組む必要があります。県として今後も協会との連携をより強固なものとし、県民の安全・安心の確保のため、協力して進んでまいりたいと考えます。

協会会員の皆様の今後益々の御活躍、協会の更なる発展を祈念いたします。

平成 28 年 11 月 長野県建設部砂防課 参事兼課長 蒲原 潤一

～ 長野県砂防ボランティア協会設立 20 周年に寄せて ～

長野県砂防ボランティア協会の設立 20 周年、おめでとうございます。

日本有数の山岳地帯が広がる急峻な地形と脆弱な地質ゆえに、数多くの土砂災害の危険性を有する長野県下において、貴協会におかれましては、土砂災害を防止するため、積極的に数々の砂防ボランティア活動に取り組んでこられたとお聞きしています。これらの活動に対して敬意を表するものです。その活動が認められ、今年 6 月には国土交通大臣から 2 度目の土砂災害防止功労者表彰を、また、9 月には防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞されるなど、数々の栄えある賞を受けられたことに対して重ねてお祝いを申し上げます。

砂防ボランティア全国連絡協議会としても、引き続き貴協会の活動支援に努めて参ります。

今後の貴協会のますますのご発展、ご活躍を心から祈念いたしております。

砂防ボランティア全国連絡協議会
会長 亀江 幸二 様



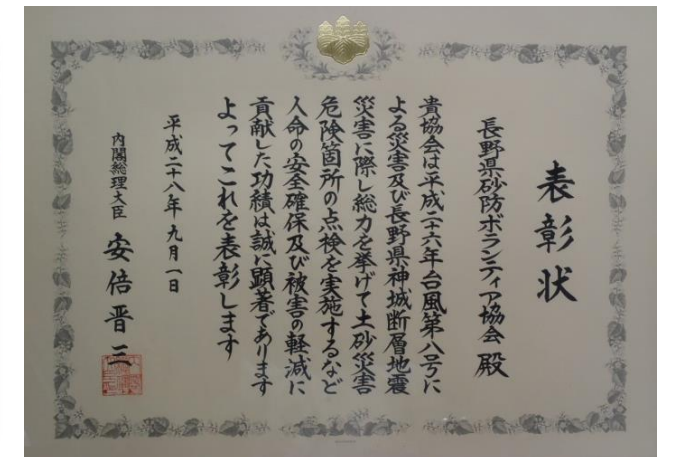
平成 28 年防災功労者内閣総理大臣表彰式 平成 28 年 9 月 12 日 於 総理大臣官邸

当協会では、平成 26 年 7 月 9 日に木曽郡南木曽町で発生した土石流災害及び、同年 11 月 22 日に北安曇郡白馬村を震源とした神城断層地震発生の際に、協定に基づいた県からの要請により、二次的な土砂災害の危険がある箇所の把握と応急対応及び市町村の警戒避難体制確立を目的とした土砂災害危険箇所の緊急点検を実施しました。その功績が認められ、平成 28 年 9 月 12 日に総理大臣官邸において内閣総理大臣から功労者表彰を受けました。

砂防ボランティア団体としては砂防ボランティア広島県協会と並んで、全国初の受賞となります。



記念パーティーにて
西山砂防部長 尾坂会長 石井国土交通大臣



阿部知事を表敬訪問

平成 28 年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞、平成 28 年度土砂災害防止功労者表彰(国土交通大臣表彰) 受賞並びに設立 20 周年の報告のため、平成 28 年 10 月 5 日に尾坂会長はじめ役員が阿部知事を表敬訪問しました。

阿部知事からは、当協会に対し「これまでの功績に感謝するとともに、今後の更なる活躍を期待し、引き続きご協力をお願いしたい。」とのお言葉をいただきました。



調査用車両の導入

土砂災害における現地調査及び渓流・斜面の状況に係る現場調査、砂防設備の維持点検に係る調査並びに防災訓練等砂防関係行事への参加及び土砂災害防止に関連する事案対応のため、平成 24 年 11 月 15 日に車両が導入されました。

車両の配備は、宝くじに係る社会貢献広報事業の一環として、一般財団法人砂防ボランティア整備推進機構への申請を経て配備いただいているものです。

車両は、毎年行っている砂防設備の維持管理活動や啓発活動を行う際に実際に活躍しています。



長崎県砂防ボランティア協会との応援協定締結



平成 24 年 11 月 19 日、特定非営利活動法人長崎県治水砂防ボランティア協会と「土砂災害防止活動における姉妹協会協定」を締結しました。

この協定は、平時から情報交換及び技術交流等を行うことで、相互に協会の資質向上を図るものです。

また土砂災害発生時には、支援活動の応援も行うこととしており、広域的な協力体制や連携を強化し、土砂災害防止に取り組んでいます。

防災功労者内閣総理大臣表彰受賞



この表彰は、『「防災の日」及び「防災週間」について』（昭和 57 年 5 月 11 日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として行われるものです。

長野県砂防ボランティア協会は平成 8 年 11 月に設立され今年 20 年の節目の年を迎えました。私は 8 年 4 月砂防課に着任しましたが、当時は前年 7 月に起きた姫川等県北部での梅雨前線豪雨災害の復旧と長野冬季オリンピック関連事業の整備推進というプロジェクトを抱えて多忙な状況でしたが、一方前年の阪神淡路大震災直後に土砂災害の緊急点検（長野県からも参加）をボランティア支援で実行したのを契機に、建設省砂防部から広域或いは激甚な土砂災害が生じた場合に迅速に対応出来るよう都道府県単位を基本に砂防ボランティアを組織化していこうとの呼び掛けがありました。砂防課が事務局を努め、協会規約案を作成し砂防課 OB の方と相談しながら、11 月 19 日長野県砂防ボランティア協会発足に至りました。

設立後今日まで、毎年定期的に土砂災害危険箇所や防止施設の巡視点検や、土砂災害についての住民や児童等への周知、啓発活動また長野県北部地震（平成 23 年）のように広い範囲で山崩れや地すべり発生の恐れがある災害発生時の緊急点検などのボランティア活動を着実に続けられています。こうした活動が土砂災害の防止に多大な貢献を果たしたと評価され、28 年防災功労者内閣総理大臣賞を受賞されたことは御同慶にたえません。

極端な気象や地震・火山活動により土砂災害等が頻発している今日、砂防ボランティア協会の役割は益々重要で地域防災力の向上からも期待されており、協会の持続的発展を祈念しております。

一般財団法人砂防・地すべり技術センター 理事長 近藤 浩一 様
（長野県砂防ボランティア協会設立時の砂防課長）

「土砂災害を考える」

近年は異常気象もあって、地域的な豪雨が多く、毎年のように土砂災害が各地で発生しています。また地震や火山噴火に起因する土砂災害もめずらしくありません。日本の自然条件を考えると、これらの災害の基になる斜面の地塊変動そのものの発生を抑止することは極めて困難です。私達にできることは、これらに巻きこまれて発生する被害をいかに少なくするかを考えることだと思われます。

斜面の地塊変動は、複雑で多様な性質をもつことが多く、それらは斜面のもつ素質（地形、地質、地下水状況等）と変動を誘発する誘因の相互のからみあいの中で発生しており、複雑性は、地塊変動の規模が大きくなるほど著しくなります。そして規模の大きなもののほど、当然ひきおこす災害も大きくなり、犠牲者も多くなります。このことを私は 1985 年に発生した地附山地すべりの対策と機構調査に参加した一人として痛感しましたが、この際種々の前兆現象や初期変動を見ても、その後の発展と規模すら予測することができなかったことに大きな問題があったと思われました。

このような大規模なものは別として各地に多発する中小規模のものは、その地域の自然条件を検討することによりある程度は予測できます。その際予測の資料として大事なものは周辺地域の災害対策で得られた経験と知見です。私も長い間災害対策の仕事に関与してきましたが、その間に気付いたことは、地域の対策には全国的な研究を行っている学者や中央の研究所の職員の見解よりも各地域の現場で苦労している技術者の見解の方が適確性を持っているということでした。それだけに各地域の災害対策の記録を整理し伝承することが極めて大事であると考えます。

土砂災害の多発する近年は、その対策の一端を荷われる砂防ボランティアの技術者への期待は大きくなっています。一層の研鑽を祈念する次第です。

初代会長 望月 功一 様

振り返ってみますと、砂防ボランティア協会も、あっと言う間に設立 20 周年を迎えられ、設立当初から参加していた私にとっては、感無量の思いでございます。

長野県西部地震で、御嶽山の崩壊による土石流災害、地附山地すべり等の土砂災害を経験していた長野県は、ハードな対策は最緊急事項でした。さらに、ソフト面での対応の必要性も理解され、設立当時から県職 OB も多数参加され、会員数は全国一の規模を誇ってきました。

会長時代に「NPO」の設立を検討したこともありましたが、残念ながら出来ませんでした。会員同志による施設の点検、危険箇所の調査を通じ、地域の皆さんには安全面での認識を深めて戴いたと思っています。

第二代会長 福井 則八 様

平成 7 年の阪神淡路大震災から 1 年後に、県の「砂防ボランティア協会」は、望月様、福井様、両名が核となって設立されました。

翌年の平成 9 年 6 月に、大阪万国博ホールで「砂防ボランティア元年宣言」をし、斜面判定士が認定されました。この宣言を基に会員は、ボランティア精神を理解し、培った知識と経験を生かして、土砂災害防止などに貢献してきました。私も常に会員各位に後押しをされて役員を勤め上げることができました。心から御礼を申し上げます。今後共会員の皆様のご活躍によって、我が協会が社会に御貢献する事を御期待いたします。

第三代会長 唐澤 行雄 様

1 砂防ボランティア協会について

砂防ボランティア活動のスタートは、平成 7 年 1 月に発生した阪神・淡路大地震まで遡ります。

地震発生後、建設省からの呼びかけにより全国各地から 346 名の砂防関係技術者が被災地に赴き、1,100 箇所以上の土砂災害危険箇所を点検し、危険度を判定、その結果を関係機関へ連絡することにより二次災害防止に大きく寄与しました。組織的に行われた砂防ボランティア活動は、これが最初と言えます。

また、阪神・淡路大地震の際、多くの防災ボランティアが活動しました。震災後に大改訂された「防災基本計画」（平成 7 年 7 月）には、防災ボランティア活動が明記され、これを受け同年 8 月に改定された「建設省防災業務計画」には「砂防ボランティア」、「斜面判定士」を含む「ボランティア活動に対する支援」や「ボランティアの育成・活用」が盛り込まれました。平成 7 年が「ボランティア元年」と呼ばれるのは、このような理由からです。

砂防ボランティアは、様々なボランティア活動のうち、特に「土砂災害から地域住民を守るため、その意欲があり、また砂防に理解や知識のある人々のボランティア活動の総称」と定義づけることができます。

砂防ボランティアとは、ボランティア精神に基づく「自発的」「無償的」「公共的」活動を通じ、土砂災害防止に貢献する人をいいます。長年にわたり砂防業務に従事し、豊富な経験を持った方が中心となっており、砂防ボランティア協会に加入しています。（以上、砂防フロンティア整備推進機構ホームページより）

長野県砂防ボランティア協会は、平成 8 年 11 月 19 日に設立し、平成 28 年に設立 20 周年を迎えました。

長野県砂防ボランティア協会 設立趣意書

阪神大震災では、震災直後より多方面にわたり、ボランティア活動が大規模かつ継続的に行われ、その効果が十分発揮されたところですが、これを契機にボランティア活動に対する認識が高まり、豪雨や地震等による土砂災害から地域の安全を守る「砂防ボランティア」の組織化が全国に広がっています。

なかでも、大規模災害時には、二次災害を未然に防止するため、土砂災害危険箇所の危険度を点検、判定する専門技術者の必要性が求められています。

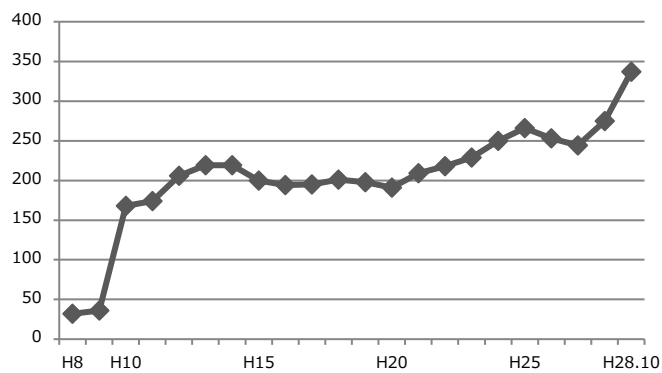
本県においては、土石流危険渓流が 3,403 箇所（全国 3 位）、地すべり危険箇所が 1,234 箇所（全国 1 位）、急傾斜地崩壊危険箇所が 2,310 箇所（全国 13 位）存在し、常に土砂災害の危険にさらされているのが現状です。（※危険箇所数は平成 8 年当時のもの）

このような状況のなかで、砂防に理解のある人や大規模災害発生時の二次災害防止のために地方自治体等の要請により土砂災害危険箇所の点検、判定等を実施できる人が、「砂防ボランティア」として活動しやすい体制を整えるために「長野県砂防ボランティア協会」を設立し、土砂災害から県民の生命や財産を守り、もって県民の福祉に寄与するものである。

平成 8 年 11 月 19 日

2 歴代役員及び会員数の推移

年度	会長	副会長	会員数
平成 8 年度	望月功一	福井則八	32
平成 9 年度	望月功一	福井則八	36
平成 10 年度	望月功一	福井則八 唐澤行雄	168
平成 11 年度	望月功一	福井則八 唐澤行雄	174
平成 12 年度	福井則八	唐澤行雄 宮島孝夫	206
平成 13 年度	福井則八	唐澤行雄 宮島孝夫	219
平成 14 年度	福井則八	唐澤行雄 宮島孝夫	219
平成 15 年度	福井則八	唐澤行雄 宮島孝夫 水野秀一	200
平成 16 年度	福井則八	唐澤行雄 宮島孝夫 水野秀一	194
平成 17 年度	唐澤行雄	宮島孝夫 尾坂壽夫 長沼和宏	195
平成 18 年度	唐澤行雄	宮島孝夫 尾坂壽夫 長沼和宏	201
平成 19 年度	唐澤行雄	宮島孝夫 尾坂壽夫 長沼和宏 宮澤洋介	198
平成 20 年度	唐澤行雄	宮島孝夫 尾坂壽夫 長沼和宏 宮澤洋介	191
平成 21 年度	唐澤行雄	尾坂壽夫 内山寿長 高橋元司 宮澤洋介	209
平成 22 年度	唐澤行雄	尾坂壽夫 内山寿長 高橋元司 宮澤洋介	218
平成 23 年度	尾坂壽夫	内山寿長 北澤正孝 北澤利実 宮澤洋介	229
平成 24 年度	尾坂壽夫	内山寿長 北澤正孝 北澤利実 宮澤洋介	250
平成 25 年度	尾坂壽夫	内山寿長 北澤正孝 北澤利実 宮澤洋介	266
平成 26 年度	尾坂壽夫	内山寿長 北澤正孝 北澤利実 宮澤洋介	253
平成 27 年度	尾坂壽夫	内山寿長 北澤利実 松下泰見 宮澤洋介	244
平成 28 年度	尾坂壽夫	内山寿長 北澤利実 松下泰見 宮澤洋介	275



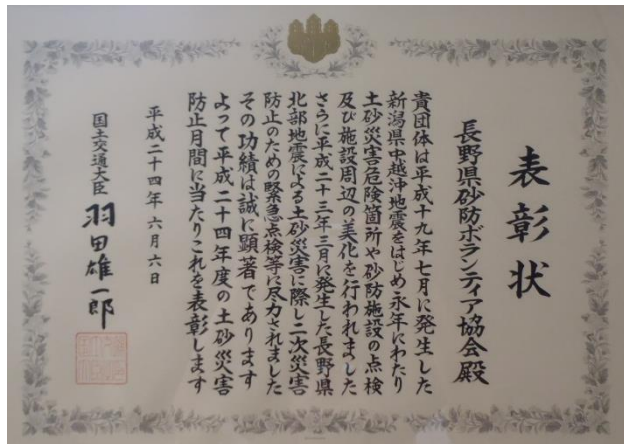
平成 8 年 11 月の設立時に 32 名でスタートした長野県砂防ボランティア協会も、会員数は年々増加傾向にあり、平成 28 年 10 月末現在では 330 名を超えています。（平成 28 年度総会時会員数は 275 名）

土砂災害防止功労者表彰（国土交通大臣表彰）受賞

この表彰は、土砂災害防止に関して顕著な功績があったと認められる団体等に対して、国土交通大臣から表彰されるものです。永年にわたる土砂災害危険箇所や砂防施設の点検及び施設周辺の美化活動、平成 19 年 7 月の新潟県中越沖地震や、平成 23 年 3 月長野県北部の地震の際に、二次災害防止のための緊急点検等を行った功績が認められ、平成 24 年 6 月 6 日に、長崎県で開催された土砂災害防止「全国の集い」にて表彰を受けました。



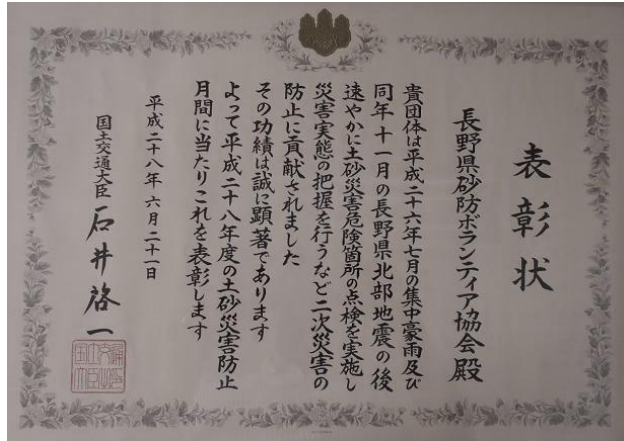
平成 24 年 6 月 6 日受賞



また、平成 26 年 7 月の南木曽町土石流災害及び 11 月の神城断層地震発生の際に、協定に基づく県の要請により実施した土砂災害危険箇所の緊急点検活動が二次災害防止に対しての功績が顕著だとして、平成 28 年 6 月 21 日に、岡山県で開催された土砂災害防止「全国の集い」にて、2 回目の表彰を受けました。



平成 28 年 6 月 21 日受賞



土砂災害防止活動表彰（長野県知事表彰）受賞

長野県では平成 24 年度に、「県民の皆様にも国土保全の意義と重要性を啓発すること」を目的として、「土砂災害防止活動知事表彰」が創設されました。

当協会が土砂災害防止に関する活動として行ってきた危険箇所点検、砂防施設の維持管理活動、知識の普及・啓発等の功績が認められ、長野県知事から平成 24 年 11 月 12 日と平成 27 年 3 月 27 日に表彰を受けました。



4 設立からの主な経緯・出来事

経 緯	内 容
平成 8 年 11 月 19 日	長野県砂防ボランティア協会設立総会開催
平成 9 年 9 月 17 日	長野県砂防ボランティア協会南信支部設立総会開催
平成 18 年 10 月 23 日	長野県砂防ボランティア協会設立 10 周年記念行事開催
平成 21 年 1 月 14 日	土砂災害時等における緊急応援に関する協定を知事と締結
平成 24 年 6 月 6 日	土砂災害防止功労者表彰（国土交通大臣）受賞
平成 24 年 11 月 12 日	土砂災害防止活動表彰（長野県知事）受賞
平成 24 年 11 月 15 日	土砂災害及び溪流、斜面、砂防設備調査用車両導入
平成 24 年 11 月 19 日	長崎県治水砂防ボランティア協会と姉妹協会協定を締結
平成 27 年 3 月 27 日	土砂災害防止活動表彰（長野県知事）受賞
平成 28 年 6 月 21 日	土砂災害防止功労者表彰（国土交通大臣）受賞
平成 28 年 9 月 12 日	防災功労者内閣総理大臣表彰受賞
平成 28 年 11 月 2 日	長野県砂防ボランティア協会設立 20 周年記念行事開催

長野県砂防ボランティア協会設立総会開催

平成 8 年 11 月 19 日に長野市山王共済会館において「長野県砂防ボランティア協会設立総会」を開催しました。

設立総会では、設立趣意書、協会の規約、役員の選出、砂防ボランティア会員の募集等が審議され、今後協会として「土砂災害から県民の生命と財産を守るためのボランティア活動」を推進することを決め、協会の活動がスタートしました。



近藤砂防課長 挨拶

設立 10 周年記念行事の開催



平成 18 年 10 月 23 日に、長野県砂防ボランティア協会設立 10 周年を記念し、～薬師沢砂防惣代に砂防の歴史とボランティア精神を学ぶ会～と題して小川村薬師沢にて記念行事を開催し、砂防ボランティアの原点とも言える薬師沢の砂防惣代による歴史的砂防施設の維持・管理状況を見学しました。

当日は約 40 名が参加、約 1km にわたって当該施設を見学し、砂防の歴史を学ぶ会、協会 10 年の歩みの報告会と意見交換を行い、砂防事業の意義を確認しました。

県との災害時の応援協定締結

平成 21 年 1 月 14 日、長野県知事と「土砂災害時等における緊急応援に関する協定」を締結しました。

この協定は、長野県が災害時の危機管理体制の充実を図るため、日頃から土砂災害防止活動に携わる砂防の専門的な知識や経験を有する当協会に協力を求めたものであり、協定には災害時の緊急点検のほか、協定が円滑に運用されるよう、平常時の情報交換や技術交流等についても含まれています。



3 砂防ボランティアの活動

土砂災害は、発生場所が山間地で斜面が多く、一般の人になじみの少ない場所であること、また、一般的には発生頻度が低いということもあり、土砂災害に対する危険性の認識は、がけ地や溪流、山腹等に近いところに住んでいる人達でも低いと言わざるを得ません。適切な警戒避難体制を構築するためには、住民の人達自らが自分の住んでいる所の周辺にある土砂災害危険箇所を認知すること、安全な避難場所を確認しておくこと、市町村等の発令する警戒避難に関する情報の意味を理解すること等が大変重要です。

したがって、砂防ボランティアの活動としては、『平常時』と『災害発生時』の活動が挙げられます。

『平常時』の活動としては、「土砂災害危険箇所等のパトロール」、「土砂災害に対する知識の普及・啓発活動」、「講習会・研修会等の開催による土砂災害防止に関する知識の普及・啓発」、「歴史的砂防施設（重要文化財等）の維持管理活動」、等に取り組んでいます。

また『災害発生時』には、県との協定に基づく「土砂災害危険箇所等の緊急点検」、「砂防関係施設の緊急点検」等を行っています。

以下に、長野県砂防ボランティア協会のそれぞれの活動内容について紹介します。

平常時の活動

土砂災害危険箇所等のパトロール

6 月の土砂災害防止月間にあわせ、長野県建設部の現地機関と土砂災害危険箇所や砂防施設の点検パトロールを毎年実施しています。

パトロールには、地元警察署、消防署、市町村、地方事務所、自治会、地域住民の方々にも参加いただくことにより、危険な箇所の点検実施と共に、土砂災害に関する啓発に繋がっていると感じています。



土砂災害に対する知識の普及・啓発活動

当協会では、小学生や中学生を対象に、災害の記憶を風化させないよう、災害発生当時の状況を伝えるべく、現場で土砂災害や防災について学ぶ学習会に協会員を派遣しています。

長野市地附山で開催した「地すべり先生の青空教室」では、地附山がなぜ今の形になったのか、現在はどういう状態なのかを協会員が子供達に分かりやすく説明し、日頃あまり目にしない土砂災害という現象が、実は身近で発生しうること、市街地に近い地附山でかつて大きな災害が発生し、その対策に当時の人がとても苦労したこと等を伝えることで、子供達の防災意識の育成を図っています。



講習・研修会の開催による土砂災害防止に関する知識の普及・啓発

毎年、協会総会の開催に併せ、協会の技術力向上を目的とした講習会を開催しています。

これまで多くの講演者の方に講演いただき、協会員をはじめとして多くの方が聴講され、技術の研鑽、土砂災害防止に関する知識の普及・啓発に繋がっています。

また、砂防ボランティア全国連絡協議会が、土砂災害に関する一定の知識と経験を有する会員を「斜面判定士」として認定しており、これに係る講習会も定期的に開催しています。

長野県砂防ボランティア協会 土砂災害防止講習会等 歴代講演者		
年 度	講 演 者（敬称略）	演 題
平成8年度	設立	
平成9年度	砂防課長 近藤浩一 防衛大学校名誉教授 中村三郎	土砂災害危険箇所と現地調査 崩壊地盤の性格と視点
平成10年度	河川課技術専門幹 大口浩一 科学技術庁防災科学研究所気象防災研究室長 森脇 寛	兵庫県南部地震災害地すべり等緊急支援チームに参加して 豪雨による土砂災害と日頃の備え
平成11年度	砂防課長 坂口哲夫 山地環境防災研究所長 北澤秋司	平成10年度の土砂災害の特徴 長野県の土砂災害
斜面判定士 講習会	砂防ボランティア全国連絡協議会会長 田畑茂清 安江斜面地盤研究室 安江朝光	砂防ボランティアの活動 かけ崩れについて
	建設省土木研究所砂防部砂防技術総括研究官 反町雄二	土石流・地すべりについて
平成12年度	砂防課長 坂口哲夫 小谷村長 郷津久男	砂防関係事業の現状 災害に学ぶもの
平成13年度	砂防課長 堀内成郎 自然保護研究所特別研究員 松田松二	砂防の現状とボランティア チロルの谷 再生のあゆみ
平成14年度	砂防課長 堀内成郎 21世紀ボランティア研究センター代表 丸田藤子	土砂災害と情報公開 ボランティアが拓く21世紀 ～共に感動のときを刻もう～
斜面判定士 講習会	砂防課長 堀内成郎 独立行政法人土木研究所土砂管理研究グループ上席研究員 小山内信智	N.P.Oがつくる新時代 ～新しい砂防－斜面判定士の働き～ 土砂の動きを見る ～土砂防災技術の最近の課題～
	砂防ボランティア整備推進機構理事長 田畑茂清	行政とN.P.O ～砂防の現状とボランティア～
平成15年度	砂防課長 堀内成郎 元全日本女子バレーボール選手 野口京子	長野県の砂防 私とボランティア
砂防講演会	前小谷村長 郷津久男	災害と過疎と砂防
平成16年度	砂防課長 原 義文 長野市赤十字奉仕団副委員長 上田節子 長野県ボランティア協会副会長 唐澤行雄 長野県ボランティア協会副会長 宮島孝夫	砂防事業に関する最近の話題 地附山災害とボランティア 地附山災害を振り返って① ～忘れないために語り継ぎたいこと～ 地附山災害を振り返って② ～地域とのコミュニケーション～
平成17年度	砂防課長 原 義文 長野県ボランティア協会副会長 唐澤行雄 姫川砂防事務所工務課長 松本久志	基礎調査と最近の状況 新潟中越地震の調査から① ～被災状況と点検結果～ 新潟中越地震の調査から② ～被災時のソフト対策と緊急調査体制～
斜面判定士 講習会	砂防課長 原 義文 信州大学名誉教授 川上 浩	土砂災害情報と警戒避難 斜面内の間隙水圧変動と安定性
	砂防ボランティア全国連絡協議会会長 田畑茂清	行政は砂防ボランティア・斜面判定士に何を求めるか。～我々は、それにどう応答し得るか？～
平成18年度	砂防課長 原 義文 豊橋創造大学短期大学部教授 寺本和子	砂防ボランティアに期待すること ボランティア活動を通して考えること
平成19年度	砂防課長 栗原淳一 松代文化施設等管理事務所学芸員 原田和彦	災害時の初期対応 ～新潟県中越地震から～ 「善光寺地震での松代藩の対応」及び「川中島の戦いについて」
平成20年度	砂防課長 栗原淳一 絵地図師・散歩屋 高橋美江	これからの砂防事業を考えるうえで 絵地図と散歩で頭の柔軟体操
斜面判定士 講習会	砂防課長 栗原淳一 砂防・地すべり技術センター斜面保全部長 綱木亮介 生坂村副村長 岩間陽子	緊急時の対応を想定した備えについて 地すべりの応急対応と地震後の安定度評価
	砂防ボランティア全国連絡協議会会長 田畑茂清	中山間地域での土砂災害 がんばろう！砂防ボランティア もっと学ぼう！斜面判定士 広めよう！砂防を
平成21年度	砂防課長 長井隆幸 長野市立博物館学芸員 畠山幸司	イランの土砂災害 ハク岳大崩壊と年輪年代学
平成22年度	砂防課長 長井隆幸 信州大学工学部教育特任教授 山崎基弘	最近の砂防行政について デタラメの話
平成23年度	砂防課長 長井隆幸 セコムＩＳ研究所主任研究員 三島和子	最近の砂防行政について 土砂災害とリスクコミュニケーションを考える
斜面判定士 講習会	砂防ボランティア全国連絡協議会会長 森 俊勇 国土交通省水管理・国土保全局砂防部保全課砂防施設評価分析官 山下 勝	砂防ボランティアの位置づけ・活動状況と土砂災害に対する危機管理 東日本大震災、台風12号等による土砂災害と対策
	砂防ボランティア岩手県協会副会長 米沢谷誠悦	体験したこと 見たこと 感じたこと
平成24年度	砂防課長 田中秀基 小谷村役場特産推進室地域おこし協力隊 段原晴美	最近の砂防行政について 協力隊としてできること ～セネガルと小谷村にて～
平成25年度	NPO法人長崎県治水砂防ボランティア協会砂防事業本部長 秦 武久 Officeアシスト・ゼロ代表 島田千亜紀	長崎県のボランティア協会活動について 東日本大震災と防災教育 ～被災地を見て、取り組んだこと～
平成26年度	砂防課企画幹 木村智行 伊那ケーブルビジョン株式会社放送部 平山直子	最近の砂防行政について 災害報道の現場から
斜面判定士 講習会	砂防ボランティア全国連絡協議会企画調査部長 伊藤仁志 信州大学農学部森林科学科助教 福山泰治郎	砂防ボランティアの位置づけと大規模土砂災害対策に対する国の動向 大学における砂防教育と調査研究について
	(一社)斜面防災対策技術協会関東支部長 上野雄一	斜面災害の応急対策
平成27年度	砂防課長 浦原潤 南信州山岳ガイド協会 小川きゆり	最近の長野県砂防行政について 御嶽山噴火に対する思い
平成28年度	砂防課長 浦原潤 長野県建設業協会女性部会長 平澤里枝	最近の長野県砂防行政について 私の仕事



平成 15 年 5 月 31 日に、前小谷村長（当時）の郷津久男氏を講師にお招きし、砂防講演会を開催しました。

平成 7 年 7 月に発生した豪雨災害の状況や砂防事業の重要性、今後の過疎地域のあり方について「災害と過疎と砂防」と題してご講演いただき、約 150 名の方が熱心に聴講されました。

歴史的砂防施設（重要文化財等）の維持管理活動

県内の砂防施設には重要文化財や登録有形文化財に指定されているものがあります。これら施設の維持管理活動に協会員が積極的に参加し、地元地区の皆さんと協働で定期的に草刈りや情報交換を行っています。

- 薬師沢（上水内郡小川村） 登録有形文化財
- 牛伏川（松本市） 重要文化財
- 荏沢川（千曲市） 登録有形文化財



千曲市荏沢川 維持管理活動



薬師沢砂防惣代の皆さんとの草刈作業後の意見交換

南信支部の活動

平成 9 年 9 月に、南信地域に在住の会員で組織する、南信支部が発足しました。

南信支部独自の活動として、国・県の出先機関や市町村と協力して、地域の方々や南信地域に訪れる方々を対象に、「土砂災害から命を守る」をテーマに、駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアムや市町村の総合防災訓練会場等で土砂災害防止の広報活動を行っています。



駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアムでの防災講習会

災害発生時の活動

災害発生時の土砂災害危険箇所及び砂防関係施設の緊急点検



当協会では土砂災害発生時に、協定に基づく県からの依頼により、二次的な土砂災害の危険がある箇所を把握し、応急対応及び市町村の警戒避難に役立てていただくことを目的として、土砂災害危険箇所や砂防施設の緊急点検を行っています。

平成 26 年 11 月 22 日の神城断層地震発生時には、23 日から 28 日までの 6 日間に、延べ 44 名の会員が県職員と合同で、震度 5 強以上が観測された地域の土砂災害危険箇所約 900 箇所の点検を実施しました。調査結果は県により、関係市町村へ報告されました。

この活動が災害の実態を把握し、二次災害の防止に貢献したと考えられます。